

Mランドニュース Vol.156

丹波ささ山校 令和2年3月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

「今、この時が一番大事。
今を大事にしているか」

—お茶の精神と、「人生二度なし」は
おなじ精神—

平成27年1月22日

小河二郎前会長 弊社講話より

Mランドウォッチング

やわらぎ
愛チーム 前川 昂希

Mランドに想いを抱いてお越しになるゲストは、入所アンケートに理由をご記入されています。

その中で「Mランドらしいなあ」と、いつも感じる言葉があります。

お友だちや先輩、ご兄弟から、「ボランティア活動が楽しかったの」と勧められたという内容のもので、入所翌日から参加されるゲストも少なくありません。

二月のある日もこんな皆さんが「朝のボランティア活動」に参加してくれました。「校内掃除に学ぶ会」は、自分たちが使うロビーや教室の掃き掃除や拭き掃除。



いい環境は自分たちの手で

つづいて「トイレ掃除に学ぶ会」は、ゲストの想像を超えた気付きを得られることもあり、人気のボランティア活動です。学校でこれまで行なってきたトイレ掃除とは異なり、



「見て！見て！私のタイルが一番！」

掃除をすると愛着心が芽生え、汚すことができません。サービsteamのスタッフは、「不思議とボランティア活動に参加しているゲストは、学科テストの合格率も高いです」と言っています。

また、以外とハマってしまふのが「タイル磨き」。おなじ道具を使うことを除けば、方法は違っていてもOK。

流れる時間を忘れ、コソコソ汚れやキズと無心で向き合うことにより、終われば自分の心まで美しくなります。



凍えそうな日もありました

「近隣清掃に学ぶ会」は、例年ですと路面凍結や積雪等で中止しなければならぬこともありました。今年も暖冬ということもあり、支障なく実施できました。長年つづけていると、ご近所の方から「ご苦労さまです」とお声をかけていただくことも多くなりました。



Mランドに来たら、是非一緒に

掃除前の準備から、掃除道具の意味や使い方、水や資源の大切さを再認識され、自らの身体で得た気付きに感動されるのです。

そんな「近隣清掃に学ぶ会」。たかがゴミ拾いと侮るなかれ。ゴミを拾っているうちに、ドライバに必要ない目配り、気配りが養われ、自らも「ポイ捨て」しない人となります。また、我々の姿を見て周囲に活動が波及するなど、ゴミと一緒に人として大切なものも拾われているようです。

みなさんが好きです

営業チーム 近藤 正幸

以前に比べ、盛り上がりがなくなったボランティア。また、今年も追い打ちをかけるように、新型コロナウイルスの猛威で、社会的には「それどころじゃない」と言われんばかりの雰囲気です。

そんな時だからこそ、少しでも「皆さんに元気を！」と、二月十四日(金)、チョコレートをお配りしました。



「イエーイ！」

「今日は、何の日ですか？」とお尋ねすると、「あー！」と思い出され、「私、あげる方なんですけど！」と、戸惑われる女性ゲストも。いいえ、我々は皆さんに元気になっていただきたいのです。ほんの気持ちばかりの贈りものです。お気に入りのインストラクターのメッセージを受け取り、飛び跳ねて喜ばれるゲストの姿に、私たちの方こそ「元気をいただいた」ボランティアでした。

当日、朝食にお越しになったゲストにお声がけし、チョコレートを受け取っていただきました。ほとんどのゲストは「？」。「今日は、何の日ですか？」とお尋ねすると、「あー！」と思い出され、「私、あげる方なんですけど！」と、戸惑われる女性ゲストも。

営業チーム 水越 健二



ゲストとともに成長できるインストラクターに

に採用していただき、七年が経ちました。

入社当時、同年代の職員が少なく、即戦力との期待感もあり、半年に一度の指導員試験に向け、連日の猛勉強、朝礼での面接練習は今も忘れられません。

そして、私を大きく変えてくれたのが、平成二十七年に開催した、「Mランドフェスタ 一〇〇〇人で大そうじ」で事務局をさせていただいたことです。

学校卒業を間近に控え、「何か仕事を」との思いで、当時私の中で花形であった大阪府下の消防署職員に採用され、やりがいを感じながら勤務していましたが、数年後、体調に異変が生じ、退職をしました。

しばらくの静養期間を経て、次は新天地にとの思いから、大阪府から兵庫県へと場所を移し、仕事を探していたところ、教習所でありながら「あいさつや掃除」を実践するなど、変わった教習所があることを知りました。

運転も嫌いではなかった私は、迷うことなく採用試験に臨み、平成二十五年七月

「思いやりのあるワン」をつく

新宮運送代表 木南一志

様からは、お送りいただく月報に加え、さまざまな資料もいただきます。

いずれも「生き方」を問われる言葉で、「ゲストにもご覧いただきたい」と思われる資料は、拡大コピーにラミネートをし、ロビーに掲示しています。

今月は、その一つをご紹介します。

中学三年の男の子がいた。

最初の始業式の日、先生がホームルームで話をしていると、その男の子はすっと立ち上がって、何も言わずに教室を出ていった。だれも理由はわからなかったが、気分を悪くしたか、トイレにでも行ったのだろうと、みんな漠然と思っていた。

帰って来た彼の手には、水がみなみと入ったバケツが握られていた。

彼はそのまま自分の席に向かった。そして、いきなり女子生徒の頭から水をぶちまけたのである。

ほかの女子生徒の悲鳴が教室に響き渡った。水をかけ

られた女子生徒だけが、黙ってうつぶしている。

あわてた先生は、急いでその生徒を職員室に引っぱってゆき「どうして、あんなひどいことをしたんだ？」と彼に尋ねた。が、彼は「あの子が気に入らない」としか言わない。あとは何を聞かれても黙っていた。

季節は変わり、いつしか卒業式の日になった。

式が終わると、先生は彼にだけちょっと残るように言った。始業式の日のもう一度聞いてみようと思ったのである。

「なあ。おい。始業式の日、どうしてあんなことをしたんだ？俺にだけ教えてくれよ。一年間、お前をずっと見てきた。お前は、絶対に、そんなことをする男じゃないよな？」

「うん、もう時効だから…」
彼は、ゆっくりと話し始めた。初めて真相がわかった。

その女の子は、始業式の日、ホームルームの途中でトイレを我慢するあまりに、おもらしをしていただけだという。足をふたつて流れるおしっこに気づいた彼は、彼女に恥ずかしい思いをさせたくなって、

急いでバケツに水を持ってきたのだった。彼には、その方法しか思い浮かばなかった。

中学三年にもなって、おもしろしをしたことがクラス中にバレたら、彼女は深く傷ついてしまう。それならいっそのこと、自分がひどい男にされたほうがよい。

男の子がポツポツと話すのを聞きながら、先生は、何度も何度もうなずいていた。目にいっぱい涙を浮かべながら。

社会全体が、「自分さえよければ…」という考えが当たり前になりつつある中、自己犠牲をはらってでも「女子生徒のために」と行動した生徒には、私の薄っぺらな「思いやり感」が壊されたようでした。

編集後記

毎年、流行するインフルエンザに備え、シーズン前の職員の予防接種や、手洗い、うがいの励行に取り組んでおりましたが、私をはじめ数人の職員が感染し、ゲストの

Mランドですれちがった人様

カフェミロや館内の入口などですれちがった人、たいていみんな道を譲ってくれて優しいと思います。お互いの譲り合いの気持ちが運転に表れると思うとすごくいいです。気持ちよく過ごさせてくれてありがとうございます。

安原 朱莉

譲られていることに気付く安原様もスゴイ！！

今月のありがとうカード

皆さまや、同僚やそのご家族に多大なご迷惑をおかけしました。
体調管理に対する考え方が、周りの人々に大きな影響を与えることを教訓に、おなじ過ちを犯さぬよう、手洗い、うがいはもちろん、看護師である家内に勧められ、帰宅後に「鼻うがい」も。お体ご自愛ください。(徹)

